

未来

人権教育啓発シリーズNO.2



2020年の東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに日本政府が発表した「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に、「心のバリアフリー」という考え方が示されています。今回は、この「心のバリアフリー」について紹介します。

「心のバリアフリー」って何だろう？

「バリアフリー」という言葉を知っていますか？「バリア」とは、何かの妨げになる障壁（かべ）のこと。バリアをなくすこと・なくした状態を「バリアフリー」といいます。

私たちが暮らす社会には、様々な人がいます。赤ちゃんもお年寄りもいて、速く歩く人も、ゆっくり歩く人もいます。生まれ育ったところもそれぞれにちがいで、考え方も、好き嫌いも、得意なことや苦手なこともちがいます。

そこで、こんなことが起こります。

ある人にとってはバリアではないものが、別の誰かにとってはバリアになってしまう……。あなたがまだ、気付いていないバリアに、困っている人がいるかもしれないのです。

まず、そのことに気付くのが心のバリアフリーの第一歩。私たちの中にある、「気付かない」という心のバリアを取り払い、バリアフリーの社会を実現するために行動することを、心のバリアフリーと呼びます。バリアフリーの社会とは、様々なちがいのある人が、みんな同じように参加できて、生き生きと活動できる社会です。

心のバリアフリーには、大切な3つのポイントがあります。

「バリア」が社会の中にあると気付くこと

自分とは違う人に対して、差別をしないこと

自分とは違う様々な人とコミュニケーションをとり、想像し、共感する力を持つこと

参考文献 「新しい心のバリアフリーずかん」 ほるぷ出版



あひさつは心のバリアフリーの第一歩



日光市の学校は、「日光市人権教育基本方針」を踏まえて、人権教育を推進しています。学校では、全ての教育活動を通して人権感覚を磨き、人権に配慮した指導が行われています。その「日光市人権教育基本方針」の努力点の中に、「あひさつを人権尊重の出発点に位置づけ、『あひさつ運動』を推進する。」とあります。

例えば、車いすに乗っている人が段差のある店の前で困っていたとしたら、どうしますか。まず一番始めにすることは、「こんにちは。何かお手伝いしましょうか。」とあひさつを交わすことでしょうか。しかし、知らない人に自分からあひさつするには、勇気が必要です。その勇気を育てるためにも、日頃から周りの人々に自分から心を開き、あひさつをすることが必要です。あひさつは、様々な人とコミュニケーションをとるきっかけにもなりますし、相手の立場を想像し、共感する力にもつながります。

学校、家庭、地域社会において積極的に『あひさつ運動』を展開することは、心のバリアフリーの第一歩ではないでしょうか。